

第18回現地研修会の開催

はじめに

当機構の現地研修会は、賛助会員による道路等に関連する事業の現場見学を目的として、平成元年より継続して実施しています。今回は、10月26日(木)・27日(金)に開催し、本年度開通した金沢山側環状や能越自動車道穴水道路など石川県内の国道を中心に見学しました。

今回の研修会は、総勢37名となりましたが、好天にも恵まれ、順調に日程を消化することができました。

研修会の行程は、以下のとおりです。

(1日目)

小松空港集合→北陸自動車道徳光PA・スマートIC→兼六園→金沢外環状道路・山側環状→能登有料道路、千里浜なぎさドライブウェイ→和倉(宿)

(2日目)

和倉(宿)→能越自動車道建設館(七尾市)→能登島大橋→ツインブリッジのと→能越自動車道穴水道路→能登空港解散

北陸自動車道 徳光パーキングエリアの スマートインターチェンジ

スマートインターチェンジ(IC)は、既存の高速道路の有効活用や、地域経済の活性化を推進するため、建設・管理コ



ストの削減が可能なETC専用のゲートをSA・PA等に設置して一般道と接続可能とするものです。平成16年度から社会実験として実施しています。平成18年10月現在、全国31箇所で開催中であり、うち国土交通大臣の連結許可(地域活性化IC方式)を得て正式なICとなったものが18箇所、社会実験中が13箇所となっています。

徳光PAスマートICは、平成17年4月から社会実験として供用されてきましたが、今回10月1日から正式ICとして本格運用に移りました。上下線と

も乗り降りのできるフルICとなっており、社会実験中は1日平均約800台の利用台数がありました。アンケート結果では、約9割の方が時間短縮を実感し、地域振興、産業の活性化に役立っているとのことでしたが、見学中も相当数の車両が通過していきました。

金沢外環状道路「山側環状」

金沢外環状道路は、「山側環状」と「海側環状」で形成される地域高規格道路です。能登から加賀までの石川県土を

貫く幹線であり、金沢都市圏の骨格を形成し、高速道路ネットワークと連絡することで三大都市圏や能登・加賀地域の広域的連携強化等を目的としています。さらに金沢市の環状道路として、都心通過交通の排除や分散により市街地の交通渋滞の緩和が期待されています。

今回見学したのは、今年4月に全面開通した山側環状のうち、国道159号金沢東部環状道路として建設された区間です。バスの中からの見学となりましたが、トンネル部と高架部がほとんどとなっていました。国道8号との立体交差付近である観法寺町の交通量は13,000台/12hとのことでしたが、スムーズな交通が確保されていました。山側環状の全線開通に伴い市内交通がシフトし、交通量の減少と渋滞緩和に

如実に効果が現れているとの説明をいただきました。

能越自動車道穴水道路

能越自動車道は、輪島市から北陸自動車道砺波ジャンクションに至る高規格道路です。穴水道路は、能越自動車道の一部を構成し、同道路の完成によって能登空港と金沢市が自動車専用道路で接続されることとなり、能登地域の発展が期待される所です。七尾市内にある能越道建設館で、穴水道路の概要をビデオ等により説明していただきました。穴水道路は、経済性、環境等に配慮して建設されたとのことでした。その後、同道路を経由して能登空港に向いました

(総務部総務課)

「第13回ITS世界会議ロンドン2006」 参加報告(速報)

「第13回ITS世界会議ロンドン2006」が、10月の上～中旬、英国ロンドンのExCel Londonで開催され、当機構は国土交通省からの委託を受けて、展示の企画・制作等の事前準備から会期中のセッション調査や二国間会議の支援などの様々な活動に参画した。

詳細なレポートは次号に譲ることとし、本号では速報として、写真を主体として今次世界会議の雰囲気をお伝えすることとした。

開催期間	2006年10月8日(日)～12日(木)	
会場	ExCel London — 英国 ロンドン東郊	
会議テーマ	ITS: Delivering Transport Excellence	
参加国数	75カ国 (55カ国)	()内は前回実績
会議登録者 & 展示場入場者	7,262名、(7,130名)	同上
出展者数	243企業・団体 (163企業・団体)	同上



〔世界会議の会場〕

・今次会議の会場である“ExCeL London”の全景世界会議は、この約1/4を使用して行われた。

・展示会場の俯瞰状況

出展者数は、前回の1.5倍の243企業・団体に上り、さしも広い会場もいささか狭隘な感じを抱かせる程であった。



〔国土交通省 道路局の展示〕

・道路局ブースのテープカット
綿貫ITS推進議員連盟会長、鈴木衆議院議員、塚田ITS推進室長により、恒例のテープカットが行われた。





〔セレモニー〕
 ・開会式における
 ブラスバンド演奏
 伝統の帽子と制服に
 身を固めたバンドに
 よる演奏が、開会式
 に華を添えた。

編集後記

平成14年度以来、当機構が強力に支援を続けてきた「日本橋地域都市再生」プロジェクトは、従来の「経済優先」から180度転換した「人間・景観優先」の都市整備として注目が集まっています。そこで、今号ではこの問題について特集しました。まず、国土交通省道路局の沓掛敏夫氏に「日本橋地域から始まる新たな街づくりに向けて」と題して、続いて当機構の川本卓史研究員に「日本橋地区再生事業における官民協働によるパートナーシップ事業」と題して、さらに三井不動産総合研究所の吉村慎治氏と内藤伸浩氏に、「更新期をむかえた中心市街地の高架道路問題と都市再生」と題して、それぞれ原稿のご執筆をいただきました。

西和彦氏の巻頭インタビューは今回で終了です。貴重なお話をありがとうございました。

そして、REPORT欄には東日本高速道路株式会社からのメッセージをはじめ、平成19年度道路関係予算概算要求等の説明会における加藤久喜氏のご講演「道路特定財源の今後の展望について」などを、INFORMATION欄には「賛助会員名簿」や「第13回ITS世界会議ロンドン2006」参加報告の速報などを掲載しました。(S)

TRAFFIC & BUSINESS

季刊・道路新産業

AUTUMN 2006 No.84 (平成18年11月30日)

発行 財団法人 道路新産業開発機構
 〒104-0045 東京都中央区築地7丁目17番1号
 住友不動産築地ビル2階
 TEL 03-3545-6633(代表)
 FAX 03-3545-6660
 ホームページ <http://www.hido.or.jp/>

編集発行人 斉藤隆司
 編集協力 株式会社リーフル
 印刷 有限会社セキグチ

★本誌掲載記事の無断複製をお断わりします。



・閉会式

ロンドンから次回開催地の北京へ恒例の“パッシング・ザ・グローブ”。

・道路局ブースの全景

「2007年秋、最先端のITS社会が出現」をテーマとして、映像・パネルの他、ITS車載器及びDSRCアンテナの実機展示等を行った。